

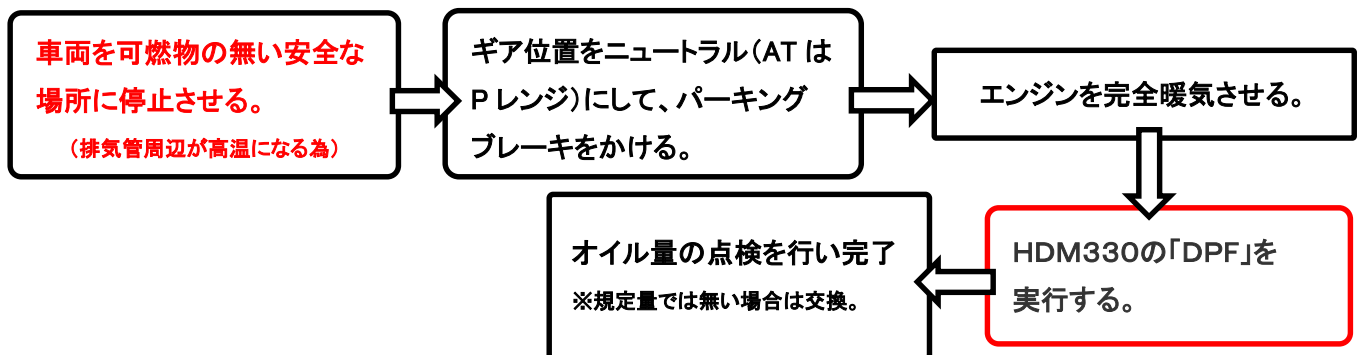
日立ダイアグノスティックツールHDM-330操作ガイド 三菱ふそう/DPF 強制再生(DPF 選択時)

注意事項/必ずお読みください

- 実際の作業に当たっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で作業手順、作業上の注意点を参照の上、作業を行って下さい。
- 自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更される為、本資料に掲載する機能が使用できない場合がございます。
- 「特殊機能」による DPF 強制再生は、DPF 関連の故障コード読取・消去関連データ表示、DPF データリセットを半自動的にスキャンツールが行います。よって、自動処理の出来ない故障コード(現在発生中により記憶されており点検整備によってしか消去されないもの等)やデータリセットが検出された場合、DPF 強制再生モードが中断され強制再生が出来ません。その際は通常メニューの「診断」・「車両選択」・「エンジン」・「故障コード読取」「作業サポート」を個別に選択して手動にて作業を行って下さい。

1. DPF 強制再生の流れ

- DPF フィルタに一定量のPMが堆積してPMを燃焼する必要がある場合、またはDPF フィルタの状態を確認する際、スキャンツールの作業サポート機能「DPF 強制再生」を使用します。
- 下記の流れで「DPF 強制再生」を実行します。



2. HDM330操作手順(作業要領含む)

【手順001/車両側の準備】

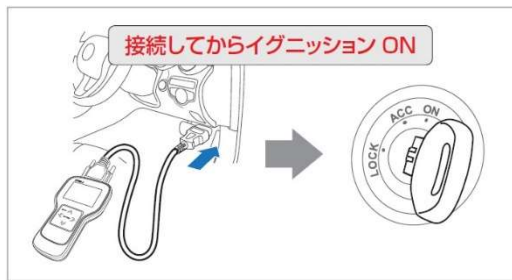
下記を行ってください。

- ① 周囲に可燃物が無く、換気が十分に行える安全な場所に車両を停止させてください。(DPR強制再生中は排気管周辺が高温になる為、特に排気管回りに可燃物が無いが、ご注意ください)
- ② シフトレバーがニュートラルであることを確認してください。(AT車はPレンジ)
- ③ パーキングブレーキをかけてください。
- ④ エンジンをアイドリング状態にしてください。尚、アイドリングコントロールノブによってエンジン回転数が上がっている場合は、左いっぱいに戻してエンジン回転数を下げてください。
- ⑤ アイドリングストップ装着車はアイドリングストップスイッチをOFF(解除)してください。
- ⑥ PTO装着車はPTO作動を停止させてください。

(次ページに続きます)

【手順002:HDM-330の車両への接続と特殊機能の起動】

下図の様に HDM-330を車両側診断コネクタに接続して下さい。HDM-330が起動し、HDM-330メニューが表示されましたら、カーソルを「DPF」に合わせてENTERキーを押して下さい。



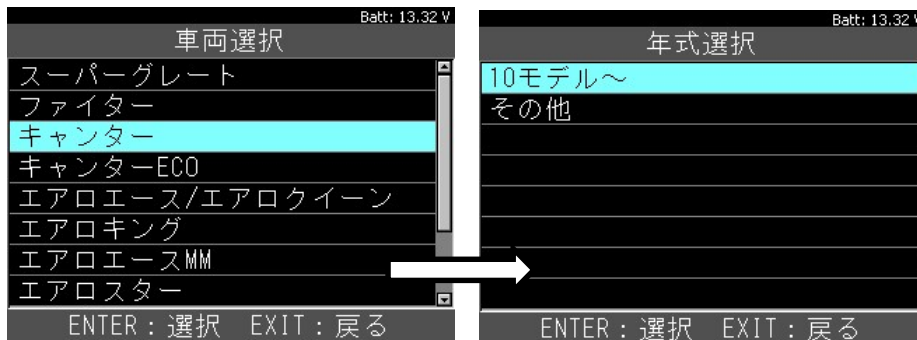
【手順003:「三菱ふそう」⇒「DPF 点検」の選択】

「DPF」画面が表示されます。カーソルを「三菱ふそう」に移動させた後、続けて「DPF 点検」にカーソルを移動させて ENTER キーを押して下さい。



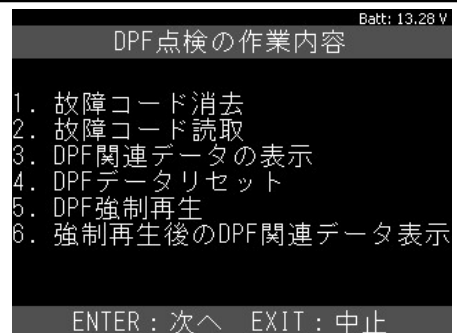
【手順004:車両の選択】

車両の選択を行います。「車両選択」「年式選択」の順番で画面が表示されますので、それぞれの画面で入庫車両に該当する項目をカーソルで選択して ENTER キーを押して下さい。



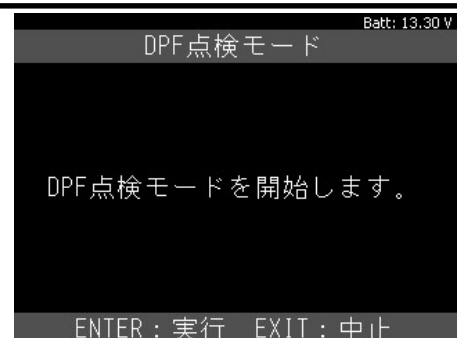
【手順005:作業内容の表示】

「DPF 点検の作業内容」画面が表示されます。ENTER キーを押して下さい。



【手順006:「DPF 点検モード」の開始】

「DPF 点検モード」画面が表示されます。ENTER キーを押して下さい。



(次ページに続きます)

【手順007:「DPF 関連データモニタ」の表示】

「DPF 関連データモニタ」が表示されます。上下キーでスクロールさせて確認し、ENTER キーを押してください。

DPF関連データモニタ		DPF関連データモニタ	
前段酸化触媒前排気温	113 °C	DPF前排気温度	108 °C
DPF前排気温度	108 °C	SCR触媒後ろ排気温度	47 °C
SCR触媒後ろ排気温度	47 °C	SCR触媒前排気温度	67 °C
SCR触媒前排気温度	67 °C	水温	83 °C
水温	83 °C	パティキュレート・濃	0.40 kPa
パティキュレート・濃	0.40 kPa	構成部品 'DPF' の差	0.10 kPa
構成部品 'DPF' の差	0.10 kPa	エンジン回転数	697 1/min
エンジン回転数	697 1/min	パティキュレート・濃	28.4 g

【補足】

途中で消去出来ない故障コードが検知された場合、下の様な画面遷移となり「DPF 点検」が中断されます。この場合は、ENTER キーを押して一旦「DPF 点検」を終了させ、故障コードで示される個所の点検整備を行ってください。

故障コードの読取	故障コードの読取	DPF
故障コードを検知しました。故障コードを次の画面で確認して下さい。 車両の修理を行った後、もう一度行って下さい。	故障コード (9) 520240- [現存値] 構成部品 'NO 520258- [メモリ値] CANタイムフ 1213-2 [メモリ値] 構成部品 ' 520500- [メモリ値] レール・ブ 520503- [メモリ値] レール・ブ 20210- [メモリ値] フューエル 520211- [メモリ値] シリンダ 1	** プロセス終了!! **
ENTER/EXIT : 続行	ENTER : 詳細 EXIT : 戻る	EXIT : 終了

【手順008:「DPF 強制再生」の表示】

「DPF 強制再生」画面が表示されます。各画面の表示内容を確認し、ENTER キーを押してください。

DPF強制再生	DPF強制再生
** 重要!! ** この機能は車両の状態によって火災や触媒にダメージを与える可能性があります。整備書を確認して内容を十分に理解した上、自己責任で行って下さい	DPF強制再生 [確認事項] - エンジン始動 - エンジン暖気(水温60°C以上) - 燃えやすい物を排気管付近に置かないで下さい。
ENTER : 次へ EXIT : 中止	ENTER : 実行 EXIT : 中止

【手順009:「DPF 強制再生」の実行】

「DPF 強制再生」の実行画面が表示されます。ENTER キーを押してください。再生が開始されます。

DPF強制再生	DPF強制再生
前段酸化触媒前排気温 113 °C DPF前排気温度 108 °C 構成部品 'ラムダ・濃 - SCR触媒後ろ排気温度 47 °C SCR触媒前排気温度 67 °C 構成部品 'DPF' の差 0.10 kPa コモンレール差圧 :30.00 kPa 目標コモンレール圧力 44940 kPa	前段酸化触媒前排気温 113 °C DPF前排気温度 108 °C 構成部品 'ラムダ・濃 - SCR触媒後ろ排気温度 47 °C SCR触媒前排気温度 67 °C 構成部品 'DPF' の差 0.10 kPa コモンレール差圧 :30.00 kPa 目標コモンレール圧力 44940 kPa
開始	再生中... (00:55)

(次ページに続きます)

【手順010:「完了!」の表示】

強制再生は車両の状態により30分前後かかります。
「完了!」が表示されましたら ENTER キーを押してください。



【手順011:「DPF 関連データモニタ」の確認】

「DPF 関連データモニタ」が表示されます。上下キーでスクロールさせて確認し、ENTER キーを押してください。

DPF 関連データモニタ	
前段酸化触媒前排气温度	113 °C
DPF 前排气温度	108 °C
SCR触媒後ろ排气温度	47 °C
SCR触媒前排气温度	67 °C
水温	83 °C
パティキュレート・濃度	0.40 kPa
構成部品 'DPF' の差	0.10 kPa
エンジン回転数	697 1/min

DPF 関連データモニタ	
DPF 前排气温度	108 °C
SCR触媒後ろ排气温度	47 °C
SCR触媒前排气温度	67 °C
水温	83 °C
パティキュレート・濃度	0.40 kPa
構成部品 'DPF' の差	0.10 kPa
エンジン回転数	697 1/min
パティキュレート・濃度	28.4 g

【手順012:「DPF 点検モード」の終了】

- ① 「全ての作業が完了しました」が表示されましたら ENTER キーを押してください。
- ② 車両側診断コネクタから HDM330を取り外してください。



【手順013/エンジンオイルのチェック】

エンジンオイルを点検して規定量では無い場合、オイル交換を行ってください。(完了)